

社会の高齢化がますます進む中で、障害のある人はかりでなく、現在健全である人にとっても、住まいの改善、改修計画は避けては通れない問題になっている。しかし、

介護リフォーム等と一口に言っても、その内容は住まい手に応じて千差万別で、そのノウハウが共有されているわけでもなく、家守りたるべき地域工務店は手探りで経験を重ねざるを得ない。

そんな現状に一石を投じようと、東京・豊島区の工務店であるイービー企画開発㈱(阿部常夫社長)がこのほど、介護建築研究所を発足させた。



そのきっかけは、阿部社長が首下全身麻痺の障

害者の住宅を改築した際、高齢者マンシヨンの改修等に携わる中で、主に感謝されたり、あるいは、建築側の立場としていろいろな試行錯誤を

しているが、弁護士、公認会計士、薬剤師、ケアマネジャー、測量士、宅地建物取引主任者等が相談に応じられる体制をと

ているが、弁護士、公認会計士、薬剤師、ケアマネジャー、測量士、宅地建物取引主任者等が相談

応じきれませんし、数年間で作り上げたネットワークをもっと活用したい(テーブルミーティング)等を通してニーズの掘り起こしを進めているほか、介護建築サポーターを確保して見込客の発掘に努めている。

企画イービー

介護建築研究所 設立 秋にはアカデミーも開講

重ねたこと。住まい手が抱える様々の問題について相談を受けるようになって、関連する分野の専門家とのネットワークも生まれ、それが介護建築研究所の設立につなが

「介護建築」を切り口とした新しい提案手法と

場として提供したい」と阿部社長。

なお同研究所では、工務店向けにビデオ(「高齢化社会に向けて工務店の対応策」「介護保険制度と建設業」「福祉機器は

現在と同様に併設される

「住まい手の悩みは多様で、一社ではそれに対

用を受ける三点セットだけでは経営を成り立たせ

今」)を貸し出している。問い合わせは ☎03・3971・6712

介護・高齢化 に取り組む